



## 地道にホームレス支援

専門は公的扶助論・貧困論で、特にホームレス問題について研究している。他方で、路上生活者らの支援にもかかわっている。

現場を踏まえた研究だけに、この問題はあくまで「貧困問題の一つの形態」という主張には説得力がある。ホームレス状態の人たちの問題は何も特殊なカテゴリーに押し込めるべきものではなく、経済的にぎりぎりの暮らしをする高齢者らの問題と地続きと見る。

「研究者としては、人を支援することの意味や難しさなど、もっと思想的なところもやってみたいと思っています」

生きる指針を学びたくて、大学では初め、インド哲学を専攻した。しかし、より実践的なものに魅力を感じて転部。社会福祉を勉強し始めて「幸せのあり方を考えられる学問だな」と思った。

卒論のテーマを探していたとき、同級生の父親である医師が、東京・山谷に誘ってくれた。かつて労働者の町としてにぎわった地区で、その人はボランティアとして医療相談を引き受けていた。

そこで現実を見て、衝撃を受ける。「自分の父と同じ世代の人が何百人も炊き出しの列に並んでいました。悲しいと言うか……申し訳ないと言ったほうが近いかな。豊かなはずの社会で、おにぎり2個を朝から待っている人がいる。それが心にひっかかりました」

自身もボランティアを始めた。今、路上生活者らを支援する認定NPO「山友会」の理事でもある。ただ、社会変革を目指す「活動家」とは違うという。

「身の丈に合ったことしか、していませんから。支援も、研究を通して伝えられることも、自分ができる範囲って小さい。問題はグローバルな文脈で起きてますが、行動はローカルなところから続けたいと思います」

(磯村健太郎)

## テークオフ

ごとう ひろし  
後藤 広史さん (30) 東洋大学助教